

安全データシート

作成： 2017年 3月22日

改訂： 2018年 6月 1日

整理番号【045】

1. 製品名及び会社情報

【製品名 (化学名、商品名等)】 : セハノールSS-1 NV63

製品の種類 : 除菌用エタノール

用途 : 食器・調理器具等用除菌剤

会社名 株式会社 セハージャパン

住所 〒110-0016 東京都台東区台東1-32-8

担当部門 営業企画

TEL 03-3839-7531

FAX 03-3839-7532

緊急連絡先 同上

2. 危険有害性の要約

GHS分類(エタノール(事業法アルコール)として)

物理化学的危険性

引火性液体	区分2
自然発火性液体	区分外
自己発熱性化学品	分類できない
金属腐食性物質	分類できない

健康に対する有害性

急性毒性(経口)	区分外
急性毒性(経皮)	区分外
急性毒性(蒸気)	区分外
急性毒性(吸入:ミスト)	分類できない
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分外
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分2B
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	区分1A
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	区分3(気道刺激性、麻醉性)
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	区分1(肝臓)
	区分2(神経)

吸引性呼吸器有害性	分類できない
-----------	--------

環境に対する有害性

水生環境有害性(急性)	区分外
水生環境有害性(長期間)	区分外
オゾン層への有害性	分類できない

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

警告

危険

危険有害性情報	引火性の高い液体及び蒸気 眼刺激 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ 呼吸器への刺激のおそれ 眠気またはめまいのおそれ 長期にわたる又は反復ばく露による肝臓の障害 長期にわたる又は反復ばく露による神経の障害のおそれ 金属腐食のおそれ
注意書き [安全対策]	使用前に取扱説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること—禁煙。 容器を密閉しておくこと。 火花を発生させない工具を使用すること。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 防爆型の電気製品、換気装置、照明装置を使用すること。 静電気放電に対する予防設置を講ずること 保護具または換気装置を使用し、ばく露を避けること。 保護手袋、保護眼鏡、保護面を使用すること。 ガス、ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。 屋外又は換気の良い場所のみ使用すること 取扱い後は、手をよく洗うこと。

3. 組成及び成分情報(危険有害性物質を対象)

化学物質・混合物の区別 : エタノール(事業法アルコール)を主剤とする混合物

一般名 : エタノール製剤

組成及び成分情報

成分名 (別名)	エタノール	水	食品・ 食品添加物
CAS No	64-17-5	7732-18-5	非公開
含有濃度(重量%)	57	42	1.0 未満
化学式又は 構造式	C ₂ H ₅ OH	H ₂ O	非公開
官報公示整理番号			
化審法	2-202	対象外	非公開
安衛法	—	対象外	非公開

4. 応急措置	
以下のいかなる場合も、必ず医師の手当てを受けること。	
眼に入った場合	清浄な水で最低15分間眼を洗浄した後、直ちに眼科医の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	アルコールの漬潤した衣服を直ちに脱がせ、アルコールに触れた部分を水で流しながら洗浄する。石鹸を使ってよく落とす。
吸入した場合	患者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、安静にする。ひどい場合は直ちに医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	水でよく口の中を洗浄した後、コップ数杯の盛衰を飲ませ希釈し、可能であれば指をのどに差し込んで吐き出させ、直ちに医師の手当てを受ける。 ただし、意識がない場合は、口から何も与えてはならない。また、吐かせようとしてはならない。直ちに医師の手当てをうける。
5. 火災時の措置	
消火剤	耐アルコール泡、水、粉末、炭酸ガス
消火方法	初期の火災には、耐アルコール泡、又は大量の水噴霧、粉末、炭酸ガス等の消火器による消火を行う。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項 保護具及び緊急時処置	関係者以外の立ち入りを禁止する。 高濃度の蒸気にさらされないように保護眼鏡、防毒マスク、ホースマスク等 適当な保護具を着用する。
環境に対する注意事項	河川などに排出され、環境へ影響を起ささないように注意すること。 大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されず環境へ流出しないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び 機材	少量の場合には、こぼれた場所へ速やかに大量の水で洗い流す。 大量の場合には、漏出液を密閉式の空容器に出来るだけ回収し、回収出来なかつた場所へは大量の水で洗い流す。
二次災害の防止策	浸透性及び揮発性があるので、付近の着火源となるものは速やかに取り除く。
7. 取扱い及び保管上の注意(関連法規に準拠して作業すること)	
取扱い 技術的対策 局所廃棄・全体排気 注意事項	「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、換気に注意する。 みだりに火気その他点火源となる恐れのあるものに接近させ若しくは注ぎ、蒸発させ、又は加熱しないこと。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取り扱いをしてはならない。 取扱い及び保管施設の電気設備は、すべて防爆構造とし、アルコール流動その他によって静電気を発生させる恐れのある場所にはこれを有効に除去する装置を設けること。 取り扱う設備のある場所を常に整理整頓し、その場所に可燃性のもの、又は酸化性のものを置かない。
安全取扱い注意事項 保管 適切な保管条件	「10.安定性及び反応性」を参照 保管は消防法上の貯蔵設備で行い通風をよくし蒸気が滞留しないようにする。 また、指定数量未満のものについても、火気その他危険な場所から遠ざけ通風をよくし、温度、湿度、遮光に注意し、冷暗所に保管する。 消防法の第1類及び第6類の危険物との混合貯蔵は禁止。また、非危険物との混合貯蔵については、原則禁止であるが、例外として危険物以外の可燃性固体類又は引火性液体類とを貯蔵する場合は、それぞれをとりまとめて貯蔵し、かつ相互に1m以上の間隔を置く場合には、貯蔵することができる。

8.ばく露防止及び保護措置	
設備対策 許容濃度	取扱いについては、火気のない換気のよい場所で行う。 STEL 1,000ppm(1,880mg/m ³) ACGIH(2009年版)
保護具 呼吸器用保護具 手の保護具 眼の保護具 皮膚及び身体の保護具 適切な衛生対策	高濃度の場所では有機ガス用防毒マスクを着用する。 保護手袋(不浸透性、耐薬品性) 保護眼鏡(ゴーグル型、側板付等)、保護面 保護衣(長袖、不浸透性、通電性)、通電性の靴、前掛け等(耐溶剤性) 保護具は清潔で有効なものを使用する。 取扱い後はよく手を洗うこと。 作業中は飲食、喫煙をしない。

9.物理的及び化学的性質(アルコール製剤として)

物理化学的状态	液体
外観	淡黄色透明
臭い	特有の芳香
味	やけるような味
物理的状态が変化する特定の温度 ／温度範囲	
沸点	データなし(アルコールは 81.2°C(101.325k Pa))
融点	データなし(アルコールは -69.0°C)
引火点	データなし(アルコールは 23°C)
発火点	データなし(アルコールは 434°C)
爆発特性	
爆発限界	データなし(エタノールは空気中で下限 3.3vol%上限 19.0vol%)
蒸気圧	データなし(エタノールは 5,878Pa(20°C))
蒸気密度	データなし(エタノールは 1.59)
比重(相対密度)	データなし(0.902(15°C/4°C))
溶解度	水、エーテルに良く溶ける
オクタノール/水分係数	データなし (エタノールは -0.30(logPow))

10.安定性及び反応性

安定性	通常取扱条件においては安定であり、危険有害な分解生成物は発生しない。 硝酸、硝酸銀、硝酸水銀、過塩素酸マグネシウムなどの強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。 強酸化剤と反応し、塩素ガスを発生する。
危険有害反応可能性	
混触危険物質	

11.有害性情報(エタノール(事業法アルコール)として)

急性毒性(経口) (区分外、分類できない)	ヒト:LDL ₀ 1,400mg/kg 行動、胃腸(吐気) ラット:LD ₅₀ 7,060mg/kg 呼吸器系 ヒト(男):TDL ₀ 700mg/kg 行動(製品生理学上)
急性毒性(吸入)	ラット:LC ₅₀ 20,000ppm/10h 毒性未評価
急性毒性(注射)	ラット:LD ₅₀ 1,440mg/kg 呼吸器系 犬:LDL ₀ 1,600mg/kg 運動失調、呼吸器系
急性毒性(腹腔)	哺乳類:LD ₅₀ 4,300mg/kg 運動失調
皮膚腐食性及び皮膚刺激性 (区分外)	

皮膚 皮膚 眼に対する重篤な 損傷性又は眼刺激性 (区分2B)	ラビット：400mg 開放 症状(軽度) ラビット：500mg/24h 症状(重度) OECD TG405 及び Draize test に従った試験により「moderate irritating」と評価されている。 ヒトで角膜上皮の障害、結膜充血は1,2日間で回復する。 ラビット：100mg/24h 症状(中度)
目 呼吸器感受性 (分類できない) 皮膚感受性 (分類できない) 生殖細胞変異原性 (分類できない)	情報なし 動物試験での有意の皮膚感受性は見られない。 ラット及びマウスにおける優勢致死試験において、陽性結果の報告がある。
変異原性 (分類できない) 発がん性 (分類できない)	小核 マウス(腹腔)：1,240mg/kg・48h。 IARCでは、「アルコール性飲料としてヒトに発がん性がある」としてグループ1に分類しているが、これは、アルコール性飲料を習慣的に摂取するヒトの多数の疫学調査に基づき、アルコール性飲料と食道系及び肝臓がんの因果関係を認めたものである。
経口 生殖毒性 (分類できない)	マウス：TDLo 320mg/kg/50週毒性未評価 アルコールの習慣的な大量摂取によりヒト胎児に対する奇形その他の悪影響が多数報告されている。
吸入 経口 特定標的臓器毒性・全身毒性 (単回ばく露) (区分3、(気道刺激性、麻醉性)	ラット：TCLo 20,000ppm/7h、妊娠、1~22日 発育異常 ラット：TDLo 44g/kg、妊娠、7~17日 発育異常 ヒトでエタノールの経口摂取により中枢神経系に影響を与え、頭痛、疲労、集中力を低下させ、急性中毒の場合には、死に至ることがある。
特定標的臓器毒性・全身毒性 (反復ばく露) (区分1(肝臓)、区分2(神経))	ヒトで5000ppm(9.4mg/l)の吸入により気道刺激性、昏迷、病的睡眠を起す。 ヒトでアルコールの長期大量摂取によりほとんど全ての器官に障害を起こすが、最も悪影響を与える標的臓器は肝臓である。障害は脂肪肝変性に始まり、壊死と繊維化を経て肝硬変に至る。 アルコール中毒患者の禁断症状(振戦症状、てんかん、精神錯乱)
吸引性呼吸器有害性 (分類できない)	情報なし。

12.環境影響情報

生態毒性 (エタノール(事業法アルコール) として)	データなし 魚類 マスの幼魚 LC5024hr 11.2g/L コイの一種 LC5096hr 18~13.4g/L クレークチャブ LC5024hr 7.0g/L グッピー LC507day 11.0g/L
残留性・分解性 (エタノール(事業法アルコール) として)	データなし 理論酸素要求量(ThOD)：2.10 BOD5 理論酸素要求量の44~80% COD 理論酸素要求量の90~100% バクテリア硝化能の抑制 4,100mg/L でニトロソマス種のアンモニア酸化の50%抑制

13.廃棄上の注意

残余廃棄物については、燃焼炉の火室へ噴霧し、焼却する。

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、若しくは、地方公共団体が、その処理を行っている場合には、そこへ委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者に危険性、有害性を十分告知のうえ処理を委託する。

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体等の基準に従って適切な処分を行う。

使用後の容器又は配管等を廃棄処分する時は、内容物を水洗してから処理する。

取扱い及び保管上の注意の項の記載による他、引火性液体に関する一般的な注意事項による。

14.輸送上の注意

輸送の特定の安全対策及び条件	運搬に際しては容器を 40℃以下に保ち、転倒、落下並びに損傷がないように積込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
国連分類	クラス 3(引火性液体)
国連番号	1987 アルコール類 容器等級II
国内規制	
航空法	規則第 194 条 3 引火性液体 (引火点 60℃以下)
港則法	規則第 12 条 危険物告示別表 2号 ホ
海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律	施行令別表第 1 3号 イ 20 Z類物質
危険物船舶運送及び貯蔵規則	第 2 条第 1 号 ハ (1) 引火性液体 取り扱い及び保管上の注意の項の記載による

15.適用法令

労働安全衛生法	施行令 別表第 1 危険物 第 4 号 引火性の物 3 (エタノール) 施行令 別表第 9 名称等を通知すべき有害物 61 (エタノール) または 634(製剤)
食品衛生法	食品添加物

16.その他の情報

参考文献	財団法人バイオインダストリー協会：アルコールハンドブック第 9 版(1997) 社団法人日本化学会編：化学便覧(改定 4 版)p.I-280、I-604、丸善(1993) 化学工業日報社：13700 の化学商品 化学工業日報社：国際化学物質安全性カード(ICSC)日本語版第 3 集(1997) 通産省公報(平成 5 年 1 2 月 2 8 日) Verschuere, K: Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals 4 th ed. ,(2001) 独立行政法人製品評価技術基盤機構 GHS 分類結果 ID:25B0007 エタノール (平成 25 年度版) DFGOT(1996) ACGIH(2009) DFGOT vol.12(1999) IARC vol.144(1988)
記載内容の取扱い	信和アルコール産業株式会社 SDS 全ての資料や文献を調査したわけではないため、情報漏れがあるかもしれません。また新しい知見の発表や従来の説の改訂により内容に変更が生じることがあります。ここに記載された情報は情報の完全さ・正確さを保証するものではありません。すべての化学用品には未知の有害性があるため、取り扱いには細心の注意が必要です。本品の適正に関する決定は使用者の責任において行って下さい。